

健康 ぷらざ

加齢性難聴

—聞こえづらさを感じたら放置しないで—

東海大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授 和佐野 浩一郎

企画：
日本医師会

No. 583

聞き返しや聞き間違いは 難聴の初期症状

年を重ねることにより誰もが少しずつ聞こえが低下することを加齢性難聴と呼びます。「難聴」という言葉に対してまったく聞こえない状態を想像する方がいるかもしれませんが、実は「最近、聞き返しや聞き間違いが増えた」「テレビのボリュームが大きくなった」ということが、軽度から中等度難聴の症状であることが少なくありません。



難聴による影響

加齢性難聴による影響はコミュニケーションがとりにくくなるだけでなく、難聴の程度が軽度や中等度であっても適切な管理が行われないことで、就業率低下や社会的孤立といった社会的な問題を引き起こしたり、認知症やうつ病といった疾患の発症リスクとなったりすることが明らかになってきました。



聞こえづらさを感じたら

聞こえづらいなど感じるが増えたら、まずは耳鼻咽喉科を受診して聴力検査を受けましょう。「音は聞こえるけど言葉が聞きにくい」という場合は語音聴力検査ごおんと呼ばれる言葉の聞き取り検査を受けることもできます。しっかりと検査を行ったうえで、対処の方針を医師と相談しましょう。適切な治療により聴力を回復することが可能な場合もあります。

聞こえづらさにより生活のなかで不便を感じる場合には、補聴器を使うという選択肢もあります。その場合は、耳鼻咽喉科医に相談し、補聴器に関するアドバイスを受けてから、補聴器販売店を訪れることをお勧めします。

